

ニコライ堂（東京復活大聖堂）



平成の修復時に、完成当時のシャンデリアが再現された

緑青に覆われたドーム屋根が美しいニコライ堂



ニコライ堂の愛称で親しまれている東京復活大聖堂。その最大の特徴は、緑青に覆われたエメラルドグリーンに輝く美しいドームである。

原設計を担当したのはロシア人建築家のミハイル・シチュールポフ。その設計図を元に、明治政府のお抱え建築家として多くの日本人建築家を育てたことで知られる、ジョサイア・コンドルが実施設計を担当。ビザンティン様式（東ローマ帝国で発達した、ドームを特徴とする建

築様式）の壮麗な大聖堂は、明治24年（1891年）に完成した。建築費用は、ロシアからの寄付金と、日本人信徒の献金によって賄われたという。

しかし大正12年（1923年）の関東大震災で、当時の鐘楼部が倒壊しドーム部が崩落。火災にも見舞われ、土台と煉瓦壁のみが残される被害を負ってしまう。

震災からの修復は、昭和4年（1929年）に完成。修復設計は、明治生命館や大阪市中央公会堂の設計

で知られる岡田信一郎が担当した。このときにドームの形状は、よりビザンティン様式が強調され、高さ35mの現在の姿に生まれ変わった。

その後、準備期間を含めると9年間、平成10年（1998年）まで老朽化に伴う修復、補修が行なわれた。

ドームの上に輝く十字架や、本堂内のシャンデリアが修復され、イコン（聖像画）には金箔、白金箔が施されるなど、輝くばかりの美しい姿を見せてくれる。

DATA

名 称 ニコライ堂（東京復活大聖堂）
 所在地 東京都千代田区神田駿河台4丁目1-3
 完 成 明治24年
 設計者 原設計 ミハイル・シチュールポフ
 実施設計 ジョサイア・コンドル
 修復設計 岡田信一郎



完成当時は、窓の飾りも質素なものとされていた

聖人達が描かれたアイコン（聖像画）。
 平成の修復で金箔、白金箔が貼られた